

池田 年穂 教授 最終講義

日時：平成 27 年 3 月 7 日（土）13 時～14 時 30 分

場所：慶應義塾大学薬学部 1 号館マルチメディア講堂

翻訳の世界—Traduttore, traditore!

講義要旨：

池田の訳業は元々専門の移民論・移民文学に関わるものから始まっている。例を挙げれば、題名通りの内容である『フランスのベトナム人』、日系米人の強制収容体験についての証言集『リロケーション』、ジェシカ・サイキの 2 冊の短編小説集といった具合である。21 世紀に入ってからその傾向は続いた。カナダ首相出版賞受賞の『生寡婦』（2003 年）はカナダへの広東からの移民を扱っている。ただし、2009 年に翻訳を再開してから刊行された 10 冊の内、移民関係は 2 冊に過ぎない。これは「研究者の余技」としての翻訳に留まることに飽き足らず、「翻訳家」をめざした故である。

「文明開化」(civilization) という言葉自体が福澤先生の翻訳語であるとされるが（『西洋事情』外篇、1867 年）、西洋文明の受容において翻訳が果たした役割は測り知れない。そして、現代においても翻訳のレゾンデートルは揺るがない。義塾賞受賞の『赤い大公—ハプスブルク家と東欧の 20 世紀』（2014 年）など近年刊行された池田の訳書を例に取りながら、翻訳書がいかにして世に出され、流通し、消費されてゆくのか、その過程を検証してゆきたい。さらに、翻訳という作業を行う上で必要なものは何か、翻訳書を含めた現在の出版事情はどのようなものであるか、といったところにまで話しを展開させたい。

学内外の皆様のご来場をお待ちします。

世話人代表：衛生化学講座 田村悦臣